

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、事業所理念は見やすい場所に掲示し、目を向けるようにしており、職員はホームの理念を述べるができるよう、ケア検討時には理念を確認している。	職員は、毎月のスタッフ会議で理念を唱和される他、理念を確認されながら実践に繋がられている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍では、地域交流や家族交流はオンラインでおこなった。今年度は対面となり、自施設で交流したり、一緒に外出するなど、地域や家族との交流は以前のようにできている。	社会福祉専門学校生、勝谷地区の地域住民、家族交流会をオンラインで認知症の勉強会を開催された。また、利用者と共に鹿野町のイベント等に参加されたり、自施設で地域住民とミニミニ運動会をされるなど地域と繋がりがりながら交流が行なわれていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和4年に地域住民に向けて、オンラインで認知症の勉強会を開催した。今年度は町内の認知症予防教室の方々に自施設にきてもらい、「ミニミニ運動会」を開催し、お互いに理解しあう機会があった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、計画に対しての活動報告、次回までの計画を話し、委員の意見をサービスに活かしている。今年6月運営推進委員の方と入居者との交流会を行った。	利用者やサービスの実際、活動報告をし、委員の意見をサービスの向上に活かされている。また、満足度調査を利用者、利用者家族に実施され、運営推進委員と利用者の交流も行われた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに入っていたいであり、協力関係を築いている。	市町村担当者とは、運営推進会議のメンバーとして日々協力関係を築けるよう取り組まれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設老健と共に、身体拘束に関しての勉強会を年に2回実施し、意識を高めている。また、毎月身体拘束を行っていないか点検している。	身体拘束については、年2回併設の老健施設と共に勉強会を実施され、毎月のスタッフ会議で話し合いながら点検されている。日中、玄関の施錠はされていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回勉強会を開催し、虐待に関する理解が深まるように話し合っている。また、虐待防止のための職場環境づくりに取り組んでいる。毎月スタッフ会議では、高齢者虐待例一覧を確認し、自己啓発につなげている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について、グループホームで学ぶ機会をつくっている。また、対象者がおられれば、活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や、退居後の方向性など、入居者、家族の疑問や不安を確認しながら、丁寧に説明し、また介護保険制度等の改正時も、家族に利用料金の説明をし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者の会を実施し、意見を聞いている。年に2回満足度調査を行い、結果は公表している。ご意見や満足度調査の結果は業務に反映させている。	年2回満足度調査を実施され、その結果は広報誌等に載せられる他、ホームページに公表されている。尚、毎月、利用者の会を実施し、その都度意見を聞き「グループホームだより」では、日頃の様子を伝えられていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談時に、意見を聞くようにしている。また主任会議や管理会議に提起し、グループホームに反映させたり、日頃から職員同士コミュニケーションを図っている。	年1回の個別面談やスタッフ会議にて意見や提案を聞かれ、認識の共有化を確認されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期首面談により、向上心をもって働けるよう話し合ったり、職員個々が目標を持って努力している。スタッフ会議時に、スタッフが働きにくさを感じている部分があれば、業務改善を行うなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、オンラインでの研修もあるが、集合型もあり、参加できるよう勤務を調整している。内部研修は様々な方法で毎月あり、グループホームの職員全員が学ぶことができる。。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホーム研修会に年1回参加している。また今年9月、他のグループホームの入居者を自施設に招く機会があった。1回/2ヶ月同法人のグループホームの職員とオンラインで業務について意見交換をおこなうことになっている。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い入居者の生活状態、心身の状態を把握するようにしている。また不安や思いを理解し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、時にはホームの生活を体験してもらうような工夫をし、本人の求めていることや不安を理解している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を受け、信頼関係を築き、居宅支援事業所とも連携しながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、入居者が主体となり、入居者の思いを聞きながら支援し、信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、職員は家族の思いに寄り添いながら、本人と共に支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍後の今年は家族交流に力を入れ、2月 5月 9月と交流会を3回おこなった。また、ドライブや外出を通し、なつかしい景色や人を思い出す機会が増えた。	本年度は家族会を3回実施された。また、自宅周辺のドライブや外出支援として、馴染みの場所や人との関係継続が出来るよう個々に対応されていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間、散歩、行事参加、外出等、日常の活動を入居者同士で誘い合い生活している。また、入居者同士でコミュニケーションが取れるよう働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居後も、経過を家族に聞き、併設老健とも今後のことについて相談や支援できる体制にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いの把握に努めている。毎月利用者の会を設け、様々な意見を聞いている。意思疎通が困難な方については、家族から情報を得たり、相談をしながら支援している。	一人ひとりの思いや意向は様々であるが、工夫しながら聞き取りをされたり、家族からの情報を基に本人本位の支援に努められている。また、面会時には利用者家族から以前の様子を聞かれサービスの向上に繋がられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等を本人から聞くと同時に、家族からも情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態は毎日チェックしている。家事活動やレクリエーション、余暇活動では出来ない事より出来る事に注視し、変化を見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、3ヶ月ごとの介護計画の見直しはリハビリ職員の助言を受け、職員全員で情報共有をし、本人や家族の意見を聞きながら、現状に即した介護計画を作っている。	3ヶ月ごとの介護計画の見直しについては職員全員で情報を共有し、個々の利用者のリハビリについては、リハビリ職員の助言のもとで行われ、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を入力し、気づきや工夫は申し送り時に伝達、情報共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍では家族とのオンライン交流を工夫しながら行った。今年は2月は「味噌づくり」、5月は「かみじち史跡公園」に行き、9月は「燕趙園」に行くなど、今までしたことのない経験を家族とおこなう事ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の衣料品店に訪問販売に来ていただき、利用者の好みの衣類や日用品を選ぶ事ができた。町内のイベントがあれば、入居者とともに出かける機会が増えた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について確認している。家族が同行不可能な場合は、職員が代行している。受診結果について電話で、家族に報告や相談をしている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は、家族同行が基本だが困難な場合は、職員が同行し結果は電話やお便りにて報告されている。又、月2回、往診希望の利用者の支援もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健の看護師との連携体制がある。看護師については、24時間相談することが可能。また、介護職員の情報を元に、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院や家族と、早期退院できるように情報交換に努めている。月に1回協力医療機関との連携会議に出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、緊急時の対応について、家族と話し合い、同意をいただいている。看取りについての指針、マニュアルはあるが、現在対象者はいない。	重度化した場合や緊急時の対応について、入居の際、本人、家族に確認されている。変化のあった場合は、その都度確認しながら方針を共有されている。看取りについての指針、マニュアルを作成し、看取りについての研修を毎年実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回の緊急時対応訓練はおこなっている。救命救急の振り返りは動画等で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設老健の年4回の避難訓練に、入居者も参加している。今年10月地域の防災訓練に参加した。	年4回、併設の老健施設の避難訓練に参加されている。火災、風水害、地震、夜間想定訓練に利用者も一緒に参加されている。また、地域の防災訓練にも参加された。施設全体としての備蓄はある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーに関わるものは、他者の目の触れないところで保管している。人生の先輩として、言葉かけや対応に心がけている。	利用者のプライバシーに関わる物は、他の利用者や外部の人の目に触れないように配慮し、保管されている。お風呂、トイレ誘導は、活動のふし目ふし目で全員に声掛けされる等、配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、複数の選択肢を提案して、本人が決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせたケアをしている。その日、その時の本人の気持ちを尊重し、出来る限り個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の希望があれば、訪問理美容を利用することができる。。日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。着替えも本人が決定できるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回程度季節のおやつ作りを入居者と一緒に行っている。個々の誕生日にはグループホームで赤飯を炊いて、お祝いをしている。食後は、後片付けができる利用者には、下膳してもらっている。	食事は、併設の老健施設で調理されたものを提供されている。献立は、利用者の希望を聞かれながら柔軟に対応され、その日のメニューは、利用者に分かりやすい様、各テーブルに置かれている。又、月1回のおやつ作りや赤飯作り等の他、季節を楽しめる食事を提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量が不足気味な入居者がおられれば、本人の希望にそった飲み物や食べ物等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が口腔ケアが出来るように毎食後声かけをし、実施している。週2回ポリデントにより義歯洗浄をしている。月に1回、歯科医師により、口腔ケアにおける指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるように、個々に合わせた声かけのタイミングで、案内をおこなっている。また、常に下着や陰部の清潔の保持を心がけている。	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、声掛けされている。日中は、食事前、活動後に全員に声掛けし、夜間は時間を決めて個々に案内され、排泄の自立に向けた支援をされている。また、便秘予防として、日中の散歩や運動を取り入れられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりトイレで、確実に排便を確認するようにしている。また飲食物の工夫や、毎日の散歩・運動に取り組んでいる。主治医と相談し、下剤による排便コントロールを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴衣類の準備はできる方は自分で準備してもらっている。小風呂に入ることも、温泉に入ることもできるが、ほとんどの入居者が小風呂で満足されるので、現在は年に数回くらいしか温泉に入っていない。	入浴は、日中の時間帯に個浴で対応され、週2～3回は入浴出来るように支援をされている。普段は小風呂で入浴され、年に1～2回、温泉や足湯を楽しむ機会を設けられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動をして、生活リズムを作り夜間安眠できるようにしている。日中は一人ひとりの体調や表情に配慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースファイルに薬情報を保管し、把握している。職員が服薬支援をおこない、効能を確認し、何か気になる事があれば、主治医やかかりつけの薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの入居者の役割を意識し、余暇活動や家事活動を職員と協働でおこなっている。散歩やドライブを楽しめるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期は月に1回程度は、入居者全員が外出できるよう、行事計画を立案している。	年間行事での外出支援の他、町内の散歩、イベントの参加や少人数での外食やドライブ等、日頃から機会を見つけ、戸外へ出かけられるよう支援をされている。又近くの畑へ野菜の収穫に出かけられ、手作りおやつや食事作りをし、楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いで嗜好品を購入することができる。必要な物あれば、職員と一緒にお店に行き、買物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したい入居者がおられれば、施設の電話を使い、話することができる。年に1回程度はがきを書いてもらう機会を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保つために施設内の環境整備に努めている。また、季節を感じられるような飾りや花などを生け、生活のリズムに合わせて音楽を流すなど、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	共用空間は、季節の花や利用者の書道作品、行事ごとの利用者の写真が飾られている。毎朝、利用者と共に掃除をし、夜は職員がリビングを掃除する等、快適に過ごせるように努められている。日中は、TV、館内放送でBGM、生活のリズムに合わせて好みの音楽を流され、思い思いの場所で居心地よく過ごせるよう配慮されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングをテーブル席とソファのコーナー、畳敷きのコーナーなど、思い思いに過ごせる居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらい、家族の写真や好みのものを置いたり、自分の作品を飾るなど、一人ひとりの居場所作りをしている。	居室はエアコン、トイレ、洗面台、机、イス、ベットが設置されている。テレビ、家族写真、利用者の作品等、好みの物が置かれ、心地よく安心して過ごせるように支援されている。寝具は、利用者、家族の希望に添って準備され、月1回は、クリーニング等、清潔保持に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、ベッドやチェストの位置が個々によって違っており、その方の動きに合わせている。また、リビングは広くゆったりとしており、安心して移動できるように配慮している。		